

子宮頸がん予防のために 検査を受けましょう！

今年度より巡回健診ではHPV検査を実施します

子宮頸がん^{けいぶ}とヒトパピローマウイルス (HPV)

子宮頸がん

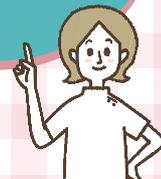
子宮頸がんは子宮の入口(子宮頸部)に発生するがんで、初期はほとんど自覚症状がありません。そのため症状を感じた時には、既にかんが進行していることも少なくありません。検査で早期に発見することで、子宮を摘出することなく、軽い治療で妊娠・出産できる状態の子宮を残すことができます。

子宮頸がんは若い人でもかかるので検診が必要



資料：独立行政法人国立がん研究センターがん対策情報センター

若い年代から罹患するがんだからこそ毎年検診を受けることが大切です！



子宮頸がんの患者数

年間約**10,000人**※1

子宮の病変のみを切除する
円錐切除術を受けている女性の人数

年間約**10,000人**※2

子宮頸がんで毎年亡くなる女性の人数

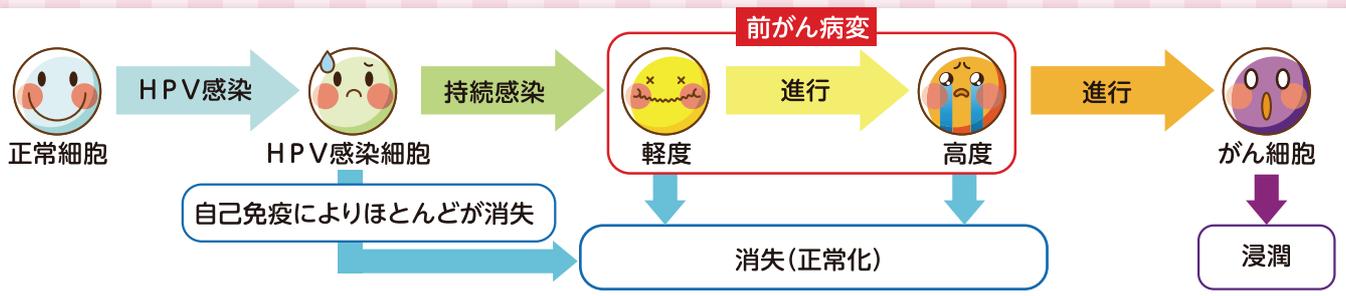
約**3,000人**※1

※1出典：国立がん研究センターがん情報サービスホームページ がん登録・統計

※2出典：日本産科婦人科学会 婦人科腫瘍委員会報告 2015年度患者年報

ヒトパピローマウイルス (HPV)

ほとんどの子宮頸がんはヒトパピローマウイルス(HPV)により引き起こされます。このウイルス感染経路は手指および性交渉によるため、性交渉のある女性の多くが一生に一度は感染すると言われています。多くの場合、ウイルスは免疫で排除され一過性の感染に終わりますが、まれに持続感染を起し、10年程度を経てがんへ至るとされています。ヒトパピローマウイルスの持続感染は子宮頸がん発症の高いリスク要因であることから、自覚症状がなくとも定期的に検査を受けることが推奨されています。ヒトパピローマウイルス感染の有無を継続的に確認することで、がんに至る前に発見し治療ができ、結果として子宮頸がんを予防することができます。



検査の種類

子宮頸部細胞診検査 <施設健診にて実施>

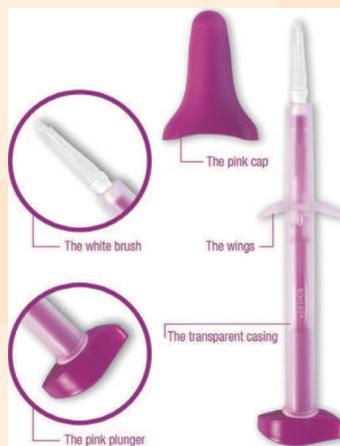
医師による子宮頸部からの細胞採取を行い、細胞の形を見て異常がないかを調べます。子宮頸がん検診として実施されている方法です。異常な形態の細胞が見つかった場合は、少し期間をあけて再度同じ検査をおこなったり、すぐに精密検査を行ったりします。

医師が子宮頸部の細胞を採取します。



HPV検査(自己採取) <巡回健診にて実施>

HPV検査は子宮頸がんの原因となるHPV(ヒトパピローマウイルス)感染の有無を調べる検査です。自己採取HPV検査はご自身で専用ブラシを用いて膣から細胞を採取しHPV感染の有無を調べます。【陽性(ウイルスに感染している)=がん】ということではありませんが、がんになりうるリスクがあるため、あらためて医療機関にて子宮頸部細胞診検査を受けていただくことをお勧めします。



ストッパーがあるので誰かが扱っても一定の深さまでしか入りません。

3分程度で簡単に検体採取が可能です。

HPV検査についてのQ & A

一度感染したらHPVはなくなることはありますか？

ほとんどが一過性の感染ですので、免疫力で自然に排除されます。しかしHPVに長期間持続感染されている場合、子宮頸がんになる可能性がありますので、毎年のHPV検査をお勧めします。

HPV検査が陽性(感染あり)でした。どうしたらよいですか？

HPV感染は病気ではなく、ほとんどは一過性で免疫力により自然に消失しますが、まれに持続感染することがあり、子宮頸がんへの危険性が高まります。HPV検査を行い陽性判定が出た場合は、すみやかに婦人科医療機関を受診してください。

HPV検査が陰性(感染なし)でした。どのくらいの期間検査を受けなくてもよいですか？

現時点で子宮頸がんになるリスクは低いですが、毎年のHPV検査をお勧めします。不正出血など気になる症状がある場合は、婦人科医療機関を受診してください。